表紙写真　地元の小学生にヒグマの糞のサンプルをみせる職員

知床財団
SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

Annual Report 2015　2016年9月30日発行

〒099-4356 北海道斜里郡斜里町字岩宇別531番地　公益財団法人 知床財団　Tel 0152-24-2114 Fax 0152-24-2115　E-mail linfo@shiretoko.or.jp　HP http://www.shiretoko.or.jp

発行　公益財団法人　知床財団　　発行日　2016年9月30日

REPORT 2015

2015年度活動報告書

世界自然遺産
知床を未来へ

皆様からのご支援が、
知床の自然保護活動を
支えています。

知床財団
SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

Contents

2015年度の年次報告書に寄せて
2015年度の決算概要
2015年度の賛助会員の状況
2015年度の寄附状況

【公益事業】普及啓発事業
- 地域向け環境教育
- 地域向け講座・イベント
- 学習教材開発・運用
- ボランティア活動の推進
- 人材育成・就業体験の受け入れ
- 情報発信・サポーター拡大

【公益事業】調査研究・野生動物対策事業

ヒグマの調査・対策
- 知床国立公園における野生動物との共生推進業務
- 斜里町ヒグマ管理対策業務
- 羅臼町ヒグマ管理対策業務
- 幌別−岩尾別地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務
- 知床の暮らしと生き物を守る電気柵導入試験業務
- ヒグマ対策管理手法の開発

エゾシカの調査・対策
- エゾシカ個体群の動態に関する調査業務
- エゾシカ生息密度操作関係業務
- エゾシカ航空センサス調査業務
- エゾシカの採食による植生への影響調査業務

会議運営
- 科学委員会運営業務
- 科学委員会報告会支援業務
- ヒグマ保護管理方針等検討業務
- 日露隣接地域交流推進委員会運営業務

その他
- 自然環境対策業務（斜里町）
- 自然環境対策業務（羅臼町）
- サケ科魚類遡上状況調査
- 希少鳥類などの長期モニタリング
- 海生哺乳類のモニタリング
- 水域における生物群集モニタリング
- 学術的な交流と成果公表
- シホテ・アリンとの世界遺産交流
- JBN業務

【公益事業】国立公園管理事業

施設の管理・運営
- 知床自然センター
- 羅臼ビジターセンター
- 知床自然教育研修所
- 知床五湖園地
- ルサフィールドハウス

公園利用の適正化
- 知床国立公園における海域利用適正化推進業務
- カムイワッカ地区の運営
- 知床GISデータベースの作成
- 知床エコツーリズム総合推進事業

【公益事業】森林再生系事業
- しれとこ100平方メートル運動森林再生業務
- しれとこ100平方メートル運動普及推進業務

【指定寄附金事業】
- 知床の人とヒグマの共存事業
- カツラの森、命あふれる川の復元事業

【収益事業】
- 販売・有償貸出し業務
- 羅臼研究支援センター維持管理業務
- 研修・講演・視察対応業務

【財団法人管理運営事業】
- 財団法人管理運営業務

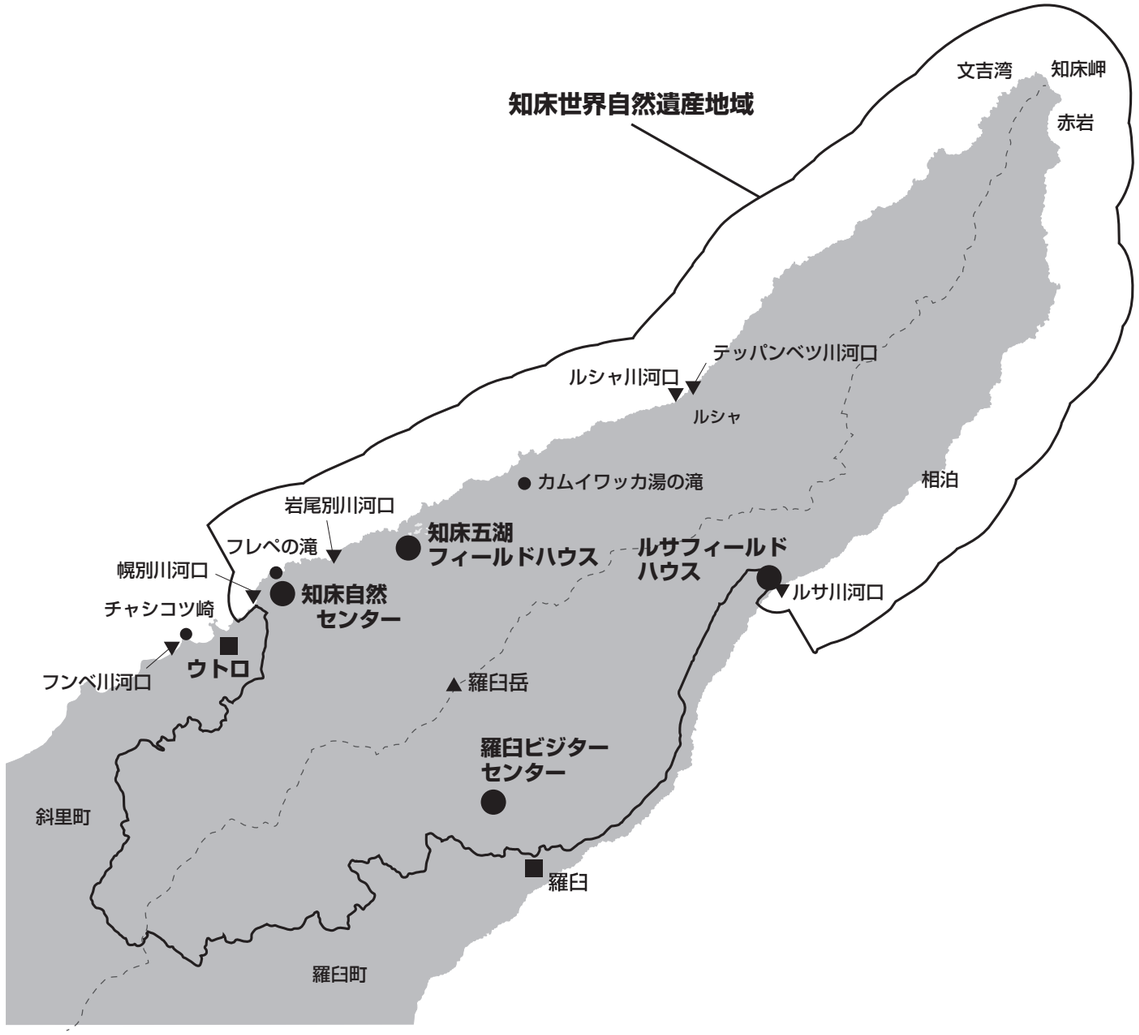
【受託事業一覧】

【組織概要】

本文中にあるマークは、寄附金・賛助会費によって実施している事業であることを示しています。

受託している事業の「受託先」と「事業名」は49ページに一覧を掲載しています。

知床半島マップ



■知床財団の使命

私たち知床財団は知床半島をホームグラウンドとし、
世界遺産知床の自然を守り、より良い形で次世代に引き継いでいきます。
野生動物やその他の自然環境の保全・管理に携わる組織として常に先駆者であり続け、人間が自然と親しみ調和していける社会の発展に寄与します。

Annual Report 2015

2015年度の年次報告に寄せて

公益財団法人　知床財団　理事長　村田良介

2015年度は、知床の世界自然遺産登録からちょうど10年を経過した節目の年でした。設立以来、当財団は遺産地域の保全や利用調整に関するさまざまな業務に関わってきました。

野生生物管理に関わる業務の中で、遺産地域内外でのエゾシカ個体数調整業務は、冬の主要業務となっており、2015年度は捕獲事業の他、半島先端部から基部までヘリコプターで上空からエゾシカの個体数をカウントする業務にも従事しました。

ヒグマ対応の件数は、この10年で大幅に増加しています。餌付けや至近距離での写真撮影など、人側のヒグマに対する問題行動が課題となり、2015年度は過去最高となった2012年度に次ぐ目撃数、対応件数を記録、これまで見られなかった大量出没年が短期間に2回も発生するなど、対応状況にも変化が見られました。また今年度は、2012年3月に策定された知床半島ヒグマ保護管理方針の次期改定にむけた総括を行いました。

遺産登録時にユネスコから指摘を受けた河川工作物の改良に関しては、この10年で1次検討ダム13基について改良が終了しています。当財団はその効果検証のためのモニタリングに関わっており、2015年度は3河川でさけますの遡上状況等の調査を行いました。同じく指摘を受けた根室海峡におけるトドの生息状況の把握については、我々の冬期来遊数カウント調査で得られたデータが重要な役割を果たしており、今年度の新たな試みとして、ドローンを用いた標識確認による個体識別も行いました。

国立公園の利用に関しては、指定認定機関として関わる知床五湖利用調整地区制度は5年目を迎え、その運用も安定しつつあります。一方で、増加した外国人旅行者向け情報発信の強化や、普及が進んだＳＮＳを活用した情報発信など、知床財団として新たなミッションにも取り組みました。

また、遺産登録後に設置された適正利用・エコツーリズム検討会議は、地域提案型の利用の在り方やルール作りの場として確立されつつあり、2015年度も先端部地区の利用の在り方等について白熱した議論が交わされました。この他、この10年で拡大した野生動物観察を目的としたツアーのあり方など、引き続き議論の途上にある課題もあり、今後も知床財団として積極的に参画します。

施設運営では、長年の懸案であった知床自然センターの改修工事が2015年秋に始まり、議論を重ねてきたリニューアル案がついに現実のものとなりました。また、ルサフィールドハウスの開館期間が短縮されるなど、変化のあった年でもありました。

遺産登録から10年の歳月が経ちましたが、登録当時と比較して解決に向けて前進したものもあれば、いまだ解決していない課題も山積しています。引き続きご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

村田　良介　Ryosuke Murata

石川県小松市に生まれ、愛知県で育つ。1980年から斜里町教育委員会で社会教育主事や知床博物館学芸員として勤務。02年から環境保全課で「しれとこ100平方メートル運動」、世界自然遺産登録、知床五湖の利用調整地区制度導入等を担当。総務環境部長を経て11年に教育長に就任し、現在2期目。プライベートでも登山や山スキー、沢登り、カヌーで知床を駆け巡り、自然や歴史の魅力を発信している。

［歴代理事長及び任期］

藤重千秋　（1988年9月23日～1997年9月23日）
法量　武　（1997年9月24日～2003年3月31日）
森　信也　（2003年4月1日～2009年3月31日）
関根郁雄　（2009年4月1日～2016年6月11日）
村田良介　（2016年6月11日～）

2015年度の決算概要

2015年度の総事業費は、3億3千886万円

知床財団の事業費は「独自事業」、「斜里町・羅臼町委託事業」、「その他委託／請負事業」の大きく3つに分類されます。中でも、独自事業は賛助会費や寄附金が重要な財源となっています。賛助会員をはじめとする多くの方々の継続的なご支援により、2015年度は全64事業を行いました。

1. 独自事業

（事業数29 事業費4千402万円）

賛助会費や寄附金の他、知床自然センター及び羅臼ビジターセンターでの販売物収入が主な財源となっています。

2. 斜里町・羅臼町委託事業

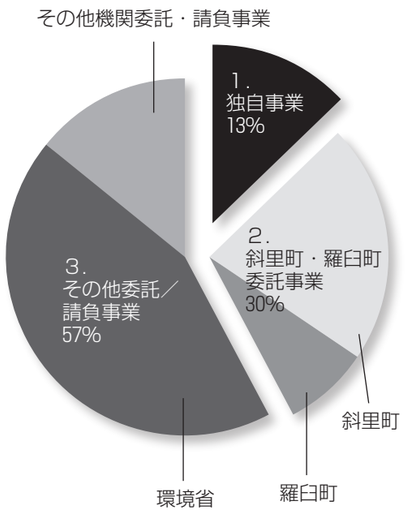
（事業数11 事業費9千962万円）

斜里町からは、知床自然センターや知床自然教育研修所などの指定管理業務やしれとこ100平方メートル運動の現地業務などを受託し、羅臼町からは羅臼ビジターセンターの運営業務を受託しました。また両町からヒグマ管理対策業務、自然環境保護管理対策業務をそれぞれ受託しました。

3. その他委託／請負事業

（事業数24 事業費1億9千522 万円）

環境省やその他機関から、各種業務を受託しました。



2015年度の決算報告

科　　目	金　　額
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1.　経常増減の部	
(1)経常収益	
基本財産受取利息	11,250
事業費収益	294,845,616
寄附金	17,353,387
普及研修費収益	23,724,249
その他の事業費収益	235,201
雑収益	2,708,943
経常収益計	338,878,646
(2)経常費用	
事業費	329,336,243
管理費	2,495,569
経常費用計	331,831,812
当期経常増減額	7,046,834

科　　目	金　　額
2.　経常外増減の部	
(1)経常外収益	
その他特別収益	0
経常外収益計	0
(2)経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	7,046,834
一般正味財産期首残高	78,121,533
一般正味財産期末残高	85,168,367
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
受取指定寄附金	2,750,000
一般財産へ振替寄付金	▲ 5,527,000
当期指定正味財産増減額	▲ 2,777,000
指定正味財産期首残高	51,677,000
指定正味財産期末残高	48,900,000
Ⅲ　正味財産期末残高	134,068,367

web　http://www.shiretoko.or.jp/about/outline/teikan

2015年度の賛助会員の状況

知床財団の活動は、賛助会員をはじめとする多くのサポーターの皆様に支えられています。2015年度は新たに110名、11団体の皆様にご入会いただきました。皆様の温かいご支援に対しまして心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

なお、知床財団への会費は、所得税、住民税、及び相続税における優遇措置を受ける対象となります。詳しくは知床財団ホームページ、または税務署にお問い合わせください。

URL　http://www.shiretoko.or.jp/supporter/zei/

（1）2015年度の会員数

個人年会員	個人終身会員	法人年会員	法人特別年会員
695名	1,062名	45団体	8団体

（2）新規入会

個人年会員99名、個人終身会員11名、法人年会員9団体、法人特別年会員2団体の入会がありました。私たちの活動をご支援いただき、深く感謝申し上げます

（以下、敬称略）

新規法人年会員	所在地
CSEG株式会社	東京都
ファームエイジ株式会社	北海道
医療法人社団鶴翔会つるい整形外科	東京都
羅臼石油株式会社	北海道（羅臼町）
土橋工業株式会社	北海道（斜里町）
有限会社 藤田電工	北海道（斜里町）
株式会社 丸七高橋組	北海道（斜里町）
有限会社 小林配管工業所	北海道（斜里町）
株式会社 あらい	福岡県

新規法人特別年会員	所在地
株式会社 キタムラ	神奈川県
株式会社 プリズム	北海道

2015年度の賛助会員の状況

（3）法人特別年会員一覧

法人名	所在地
商船三井フェリー株式会社	東京都
シーライブ株式会社	大阪府
光和メディカルクリニック ヘルスケアセンター	東京都
ナチュラル株式会社	福岡県
富士化学工業株式会社	北海道
株式会社 四ツ葉トレイド	福岡県
【新】株式会社 キタムラ	神奈川県
【新】株式会社 プリズム	北海道

※【新】は、2015年度の新規入会法人

（4）法人会員一覧

法人名	所在地
株式会社 知床グランドホテル	北海道
オリジナル設計株式会社	北海道
株式会社 ユートピア知床	北海道
株式会社 須田製版 釧路支店	北海道
有限会社 アウトバック	岩手県
知床オプショナルツアーズ	北海道
有限会社 みさき水産	北海道
有限会社 赤岩水産	北海道
羅臼漁業協同組合	北海道
ウトロ漁業協同組合	北海道
知床ナチュラリスト協会	北海道
オコツク漁業生産組合	北海道
株式会社 辻中商店	北海道
有限会社 木切別漁業	北海道
峯浜水産有限会社	北海道
株式会社 リリーネット	広島県
医療法人 慈久会 旭が丘ファミリークリニック	三重県
有限会社 知床ネイチャークルーズ	北海道
有限会社 らうす第一ホテル	北海道
株式会社 秀岳荘	北海道
株式会社 フェニックス	東京都
小川建設株式会社	北海道
広島フットケア	広島県

法人名	所在地
株式会社 大石アンドアソシエイツ	東京都
株式会社 スタンフット	東京都
ピックス株式会社	北海道
民宿 鷲の宿	北海道
田島公認会計士事務所	東京都
サージミヤワキ株式会社 札幌営業所	北海道
株式会社 小柳中央堂	北海道
知床観光協会 会長 赤木立太郎	東京都
小野建設工業株式会社	北海道
有限会社 丸大阿部商店	北海道
株式会社 ケミクル	北海道
シティ環境株式会社	北海道
知床ガイド協議会	東京都
【新】CSEG株式会社	東京都
【新】ファームエイジ株式会社	北海道
【新】羅臼石油株式会社	北海道
【新】医療法人社団鶴翔会　つるい整形外科	東京都
【新】土橋工業株式会社	北海道
【新】株式会社 丸七高橋組	北海道
【新】有限会社 藤田電工	北海道
【新】有限会社 小林配管工業所	北海道
【新】株式会社 あらい	福岡県

※【新】は、2015年度の新規入会法人

2015年度の寄附状況

一般寄附としてお寄せいただいた件数は72件、総額2,536,644円にのぼりました。内、個人の方からは62件、法人からは10件でした。寄附の用途を特定する指定寄附としてお寄せいただいた件数は5件（個人の方から3件、法人から2件）、総額5,850,000円のご寄附をいただきました。ご支援いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

（1）一般寄附をいただいた法人

法人名	金額（円）
知床ガイド協議会	50,000
アオイ産業株式会社	20,000
株式会社 フェニックス	300,844
アサヒビール株式会社	1,000,000
知床オプショナルツアーズ	30,000
認定NPO法人ランナーズサポート北海道	50,670
有限会社 アウトバック	20,000
株式会社 北海道新聞社　北見支社	50,000
NPO法人 知床観光協会	80,000
手作りクレヨン工房Tuna-kai	6,520

（2）指定寄附をいただいた法人

【ダイキン工業株式会社　寄附額：3,750,000円】 DAIKIN

ダイキン工業株式会社様より知床財団・斜里町・羅臼町に対し、5年間で総額1億1千万円のご寄附をいただく四者協定は5年目を迎えました。2014年度に引き続き、知床財団は斜里町・羅臼町と協力しながら以下2つの事業を実施しました。

・「知床の人とヒグマの共存」事業 (p42参照)
・「カツラの森、命あふれる川の復元」事業 (p43参照)

【北日本新聞社　寄附額：100,000円】 北日本新聞

北日本新聞社様（「とやま食文化」の魅力再発見キャンペーン事務局）より、羅臼昆布を育む海の保全活動に対し、ご支援をいただきました。

公益事業 **普及啓発事業**

▲ウトロ小中学校での環境授業
「学校の周りの木を調べよう」

▲知床キッズのシャチウォッチング

▲アクアマリンふくしまの松崎氏による講演会

地域向け環境教育

斜里町

斜里町では、ウトロ小中学校（現・知床ウトロ学校）全児童生徒を対象にヒグマ授業を計3回、以久科小学校の全校児童を対象にヒグマ授業を1回実施しました。

また、ウトロ小中学校の総合学習の一環として、10月に1～2年生を対象とした身近な植物を題材とした野外授業を実施したほか、11月には朝日小学校6年生を対象に、知床の自然保全と観光振興について授業を行いました。

▲ウトロ小中学校でのクマ授業

羅臼町

羅臼町では、今年度から幼小中高一貫教育のカリキュラムとして、ヒグマ授業を計9回実施しました。羅臼町内の幼稚園と小学校5年生、中学1年生、中学3年生、高校2年生の全生徒を対象に、各学校に出向いて授業を行いました。また、町内に2つある小学校のうちのひとつ羅臼小学校では、3・4年生を対象にしたヒグマ授業も実施しました。

羅臼中学校2年生の総合学習の時間では、「ふるさと調べ学習」の講師として知床の生き物に関する授業を2回実施しました。

羅臼町公民館などと共に羅臼町内の小学生を対象にして実施している知床キッズ（羅臼町ふるさと体験教室）は、5月から2月までの間に計10回の講座を企画しました。今年度で2年目となるウトロの愛護少年団との交流事業も、引き続き企画、実施しました。プログラムは前年度と同様で、羅臼とウトロでそれぞれ実施し、6月には羅臼から船に乗り知床岬へ出かけてゴミ拾い活動を行いました。7月には、ウトロのチャシコツ崎で浅瀬の生き物について学習しました。

▲羅臼小学校でのクマ授業

地域向け講座・イベント

クマ端会議

知床財団が行うヒグマ対策活動に対し、住民の理解と協力を得ることを目的に、職員とウトロ住民が直接意見交換をする「クマ端会議」を今年も実施しました。このクマ端会議の開催は、今年度で3年目を迎えました。日頃のウトロのヒグマ出没状況や知床財団の対応についてお伝えしながら、住民の方々と意見交換をするよい機会となりました。

▲「クマ端会議」の様子

住民講座 環境省/C16

斜里町で2回、羅臼町で2回、地元住民の方を対象に知床世界自然遺産地域の保護管理や自然の魅力等を題材とした講座の企画・運営を行いました。

斜里町では、ここ数年漁獲量が減少しているカラフトマスをテーマにした連続講座形式とし、1回目は北海道立総合研究機構水産研究本部さけます・内水面水産試験場の永田光博場長をお招きし「カラフトマスはオホーツク海を見放すのか?」と題した講演を、2回目は釧路市にある「Restaurant & Community Iomante」の舟崎一馬シェフをお招きし、カラフトマス料理教室を開催しました。

羅臼では、公益財団法人ふくしま海洋科学館「アクアマリンふくしま」の松崎浩二氏による講演会を実施しました。羅臼の沖合で確認された新種の「ラウスツノナガモエビ」など羅臼の海の素晴らしさと東日本大震災で深まった、羅臼町とアクアマリンふくしまの絆についてお話しいただきました。

▲カラフトマス料理教室の様子

▲実物大のシャチを用いた大判布

▲ダイキン工業株式会社の社員によるボランティア

学習教材開発・運用

2015年度のヒグマ学習教材トランクキット1号機の貸出実績は8件、2号機の貸出実績は3件となりました。貸出し出張期間以外では、職員がヒグマ授業や広報イベント、知床自然センター内での観光客向けレクチャー、町民への普及活動などに活用しています。

今年度は、新たに海獣版のトランクキットが完成しました。キットの中には、実物大のシャチを描いた大判の布や、アザラシ類の毛皮、かつてオホーツク文化で使用されていた回転式離頭銛の模型など、知床の海獣類に関する小物を詰め込んでいます。今後、職員の講演や施設でのレクチャー時に活用していきます。

所在地	団体名
北海道	根室市立落石小学校
	札幌市立星置中学校
	野生動物教育研究室WEL
	NPO法人新冠村づくり観光協会
	サイエンスサポート函館
東京都	東京コミュニケーションアート専門学校
	日本獣医生命科学大学
	恩賜上野動物園
千葉県	八千代市立村上中学校
兵庫県	兵庫県立赤穂高等学校
岡山県	岡山県立岡山城東高等学校

▲海獣版トランクキットの中身の一部「精巧な海獣類の模型」

ボランティア活動の推進

2015年度末でのボランティア登録者数は172名、その内の34名が「100平方メートル運動の森・トラスト」の現場での森づくりや羅臼ビジターセンターを拠点にした展示物作成作業などに参加しました。年齢層は10代から70代までと幅広く、道内のみならず遠くは関東や関西からも参加がありました。今年度の総活動日数は81日間、のべ参加人数は147人となりました。

ダイキン工業株式会社様からの支援の一環として、5月及び9月に社員ボランティアの受け入れを行いました。知床の森を訪れた計23名が森づくり作業に携わりました。なお、同社のボランティア受け入れは2011年度から5年間で計9回実施し、参加者はのべ104名となっています。

▲ボランティアの方によるトドマツ苗移植

人材育成・就業体験の受け入れ

環境教育や調査研究、公園管理の現場で活躍する人材の教育、育成のため、インターンシップ（就業体験）の受け入れを行いました。主に野生動物や環境保全を専攻する全国の学生から応募があり、夏冬合わせて6教育機関よりのべ11名の受け入れを実施しました。

受入先（夏期）	人数
東京農工大学	1
北海道大学	3
麻布大学	1
岩手大学	1

受入先（冬期）	人数
東京農工大学	2
北海道大学	1
日本獣医生命科学大学	1
日本大学	1

▲ヒグマの頭骨を修復するインターン

知床財団だより▶

知床自然センターだより▶

▲SEEDSの自然特集の現地取材をする職員

情報発信・サポーター拡大

会報誌の発行

賛助会員向けの会報誌である知床自然情報誌「SEEDS」を4回発行し、会員の皆様や関係機関の方にお届けしました。

賛助会員向け会報誌「SEEDS」▶

地域向け情報発信

知床財団の活動に対する理解と協力を得るために、地元やその他の地域に向けて知床財団の活動紹介を行っています。地元の斜里・羅臼両町民向けには、2009年度より知床の旬の自然情報や当財団の活動・イベント情報をお知らせする「知床財団だより」を発行しています。今年度は2ヶ月に1回、斜里・羅臼両町の広報誌に折り込みました（発行部数：斜里町5,050部、羅臼町2,000部）。

斜里町公民館ゆめホール知床において、7月4日世界遺産10周年の記念式典・講演会が、また翌日5日には関連行事として世界遺産セミナーが開催されました。知床財団はこの2日間、会場ロビーにブースを出展し、活動紹介パネル展示の他、ヒグマ学習教材トランクキットや、賛助会員向け会報誌SEEDSの紹介などを行いました。

斜里町農業協同組合にあるJAバンクの一部スペースをお借りして、ヒグマと人の間で起こっている問題やそれを軽減するための知床財団の活動を紹介するパネルを展示させていただきました。

しゃり木育ねっとからの依頼で、1月15日から17日にゆめホール知床で行われた「木育キャラバンin しゃり」の展示ブースに出展し、森やそこに住む動物たちの話、知床財団の活動について紹介しました。

▲JA斜里町での知床財団活動紹介展示

一般向け情報発信

知床自然センターの展示やイベント、旬の耳寄り情報を紹介する「知床自然センターだより」を作成しました。同広報誌は、宿泊者への情報提供に役立ててもらうため、ウトロの宿泊施設及び観光関係施設、全27施設 に配布しました。

また、会報誌SEEDSを活用して、観光客を対象とした知床財団のPRや賛助会員獲得に向けた広報を展開しています。2011年の夏より、斜里・羅臼両町の宿泊施設のご協力のもと、SEEDSを町内の旅館やホテルなどの宿泊施設に置かせていただいているほか、賛助会員募集パンフレットを地元の旅館のロビーなどに設置しています。

協定先の旭川市旭山動物園に設置していた「しれとこシカ絵巻」は、設置から6年が経過して展示物が退色、劣化してきたことから、掲載内容も含めて一新しました。また、知床財団活動のPR、賛助会員獲得にむけた広報のため、園内の図書館には賛助会員募集のパンフレットやSEEDSのバックナンバーファイルが引き続き設置されています。

▲一新した旭山動物園の「しれとこシカ絵巻」

▲地元斜里町で開催された「しれとこ産業まつり」の知床財団ブース

▲エコプロダクツ2015の知床財団ブース

ホームページ等インターネットを活用した広報の強化

知床財団の活動に対する理解と支援の輪を広げるためホームページ（以下、HP）での情報発信を継続して行っています。今年度は、SNS（Social Network Service）を活用した広報媒体として、Facebook、Twitterを導入しました。Twitterは知床自然センターのHPにリンクを張り、知床自然センター周辺のその日の天候の状況や施設のイベント、遊歩道の開閉状況など、リアルタイム情報の提供のためのツールとして活用しています。Facebookでは、知床財団の職場の様子や活動のひとコマが垣間見られる記事を都度掲載しているほか、イベントの周知や野生動物に関する普及啓発的な内容についても随時記載しました。

また、知床財団のヒグマ対策についてHP上でわかりやすく紹介するページを新たに設置し、公開しています。

賛助会の運営

今年度の新規入会状況は、年個人会員99件（前年度110件）、個人終身会員11件（前年度15件）、年法人会員は9団体（前年度3団体）、法人特別年会員は2団体（前年度1団体）でした。個人会員、個人終身会員は前年度を下回ったものの、法人会員は、前年度を上回る結果となりました。

▲知床財団HPに新たに設置したヒグマ対策の紹介ページ

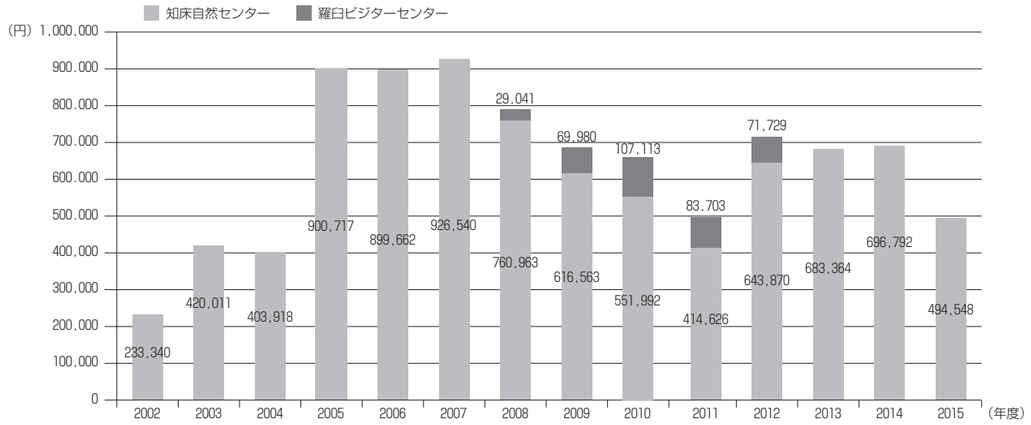
寄附、賛助会員拡大推進

知床財団の活動を広く一般の方や企業へPRし寄附拡大へとつなげるため、東京で開催された国内最大級の環境イベント「エコプロダクツ展」に出展しました。エコプロダクツ展への出展は、今年度で3年目です。開催期間3日間の来場者総数は、約17万人となり、昨年度を上回る数でした。イベントでは、ヒグマ学習教材トランクキットの一部をブース内に設置しながら、知床での活動内容などについて来場者に解説しました。また、一昨年、昨年に引き続き、SEEDSのバックナンバーを配布したところ、来場者から好評を得ました。またブース内に設置した募金箱には、来場者の方から37,500円のご寄附をいただきました。

今年度、個人寄附としてお寄せいただいた金額は2,899,743円となりました。法人寄附としてダイキン工業株式会社様、アサヒビール株式会社様、株式会社フェニックス様、他10社から総額5,458,034円の寄附をいただきました。

知床自然センター及び羅臼ビジターセンターの館内展示では、賛助会員募集や寄附の呼びかけ、寄附のお礼の掲載などに力を入れました。また、地元への活動のPRの場として、町内のイベントに出展し知床財団が行なっている活動内容の普及に努めました。

募金箱への寄附額の推移



公益事業

調査研究・野生動物対策事業

羅臼町にてヒグマにより破られた▶
作業場の扉

ヒグマの調査・対策

知床国立公園における野生動物との共生推進業務 環境省/C6

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内において、ヒグマの出没状況の把握やヒグマ保護管理対策活動等を実施しました。特に知床五湖やフレペの滝などの利用エリアにおいては、ヒグマの出没状況に応じた情報周知等を行いました。また、2013年秋にカメラマンと人慣れヒグマの問題が顕在化した岩尾別温泉道路においては、監視小屋周辺にカメラマンが守るべきルールやマナーを記した看板を設置し、適宜巡回する等のカメラマン対策を前年度に引き続き実施しました。また、公園利用者の不適切な行為（キツネへの餌やりなど）に対する各種指導や傷病鳥獣の保護収容を行いました。

▲岩尾別温泉道路に設置された監視小屋と
カメラマンへの注意喚起看板

斜里町ヒグマ管理対策業務 斜里町/A3

2015年度のヒグマ目撃件数は1,487件、対策活動が987件で、近年では2012年に次ぐ大量出没年でした。ヒグマによる人身事故は発生しませんでしたが、ヒグマと自転車が接触しそうになった事例、ヒグマが車に前足をかけた事例、登山者のテントがヒグマに破られた事例、釣り人の荷物が荒らされた事例など、人身事故につながりかねない危険事例（ヒヤリ、ハット事例）は複数件発生しました。ドングリの凶作などの影響か、秋期に食物不足となったヒグマが半島基部の農地に出現し、多数が有害捕獲や狩猟により捕獲されました。その結果、斜里町内におけるヒグマの人為的要因による死亡数（有害捕獲＋狩猟＋事故）は49頭となり、過去最多でした。

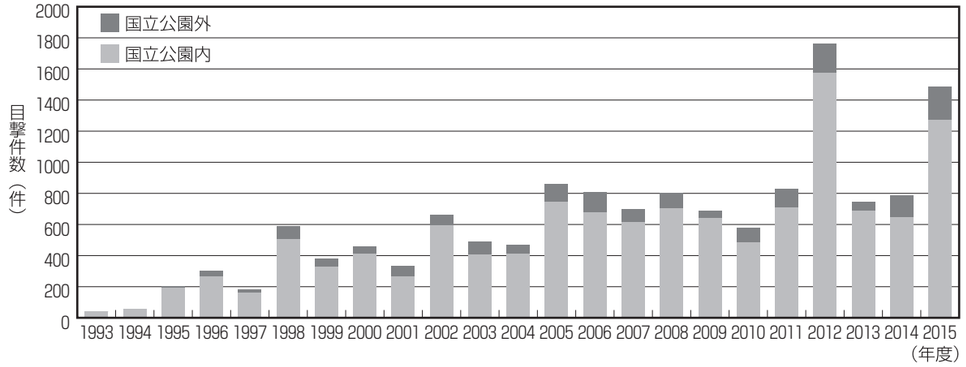
▲河口で釣り人が置き去りにしたリュックを
あさるヒグマ

羅臼町ヒグマ管理対策業務 羅臼町/B3

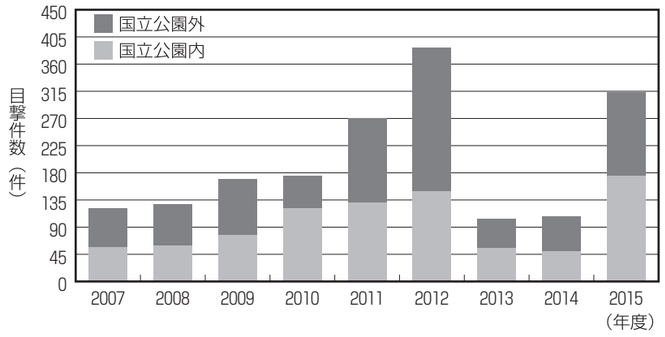
2015年度のヒグマ目撃件数は313件、対策活動は198件で、いずれも近年では2012年に次ぐ多さでした。また有害捕獲頭数は17頭で、大半がオスでした。

対策活動は、地区別では羅臼市街地北側～岬町地区で多く、月別では7月が最多でした。7月から8月だけで全対策活動件数の半分以上を占めました。

斜里町のヒグマ目撃件数（年度別）



羅臼町のヒグマ目撃件数（年度別）



▲ヒグマの頭骨標本

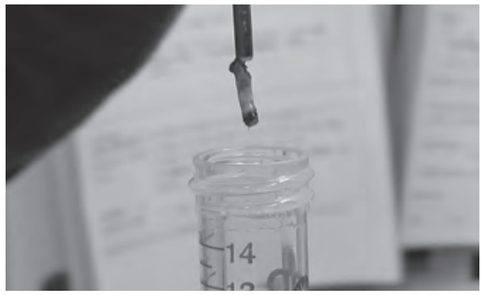
▲生体捕獲されたヒグマにGPS首輪を装着する職員

ヒグマの調査・対策

幌別ー岩尾別地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務

今年度は初夏と秋にドラム缶式ワナによるヒグマの生体捕獲を試み、10月中旬に体重84.5 kgのメス1頭を知床自然センター付近で捕獲しました。GPS首輪を装着したこの個体は、国立公園内の幌別地区と公園外のウトロ高原間を何度も往復していました。この個体の移動経路に関するデータは、ウトロ市街地を囲んでいる金網柵と電気柵が、ヒグマに対する障壁として機能していることを示唆していました。

また、外見のみでは個体識別が曖昧だったヒグマのべ9頭について麻酔銃による組織片採取（ダートバイオプシー）を行ない、遺伝子分析による結果を得ました（北大獣医学部との共同）。さらに、有害捕獲等で得られたヒグマ65個体分（斜里47・羅臼18）の頭骨標本を作製しました。


▲麻酔銃で採取したヒグマの体の組織片

知床の暮らしと生き物を守る電気柵導入試験業務

知床岬先端部にある斜里側文吉湾と羅臼側赤岩地区の漁業番屋へは、ヒグマが出没してもすぐに駆けつけることができず、対策に苦慮していました。そこで3年前からヒグマを近づけないための電気柵を設置しています。今年度は文吉湾では、積雪による破損を防止するため撤去していた電気柵を5月17日に設置しました。ヒグマは電気柵を忌避した一方で、柵のない海側に回り込んで泳いで文吉湾内に侵入する個体が観察されました。なお、赤岩地区では資材を追加提供したのみで、昆布漁業者が自主的に電気柵の設置作業を行いました。

▲文吉湾に設置された電気柵

ヒグマ対策管理手法の開発

2014年度に引き続き、出没を繰り返すヒグマが同じ個体か判断するための簡易な標識付け手段として、ヒグマを着色する方法を検討しました。今年度は、市販の防犯用カラーボールによる着色の持続期間を確認するため、冬期に耳標付きのエゾシカにボールを当てて着色し、その後の経過を追跡しました。その結果、2か月後には完全に色が落ちていました。これまでに検討を行ったペイント弾等を含め、海外には実用的な品物が流通していても国内には輸入できない製品が多く、着色によるヒグマの簡易標識付けは、国内では現時点では困難との結論に至りました。

▲エゾシカにカラーボールをあてた後、放獣した様子

▲真鯉地区のエゾシカ

▲囲いわなの中に入ったエゾシカ

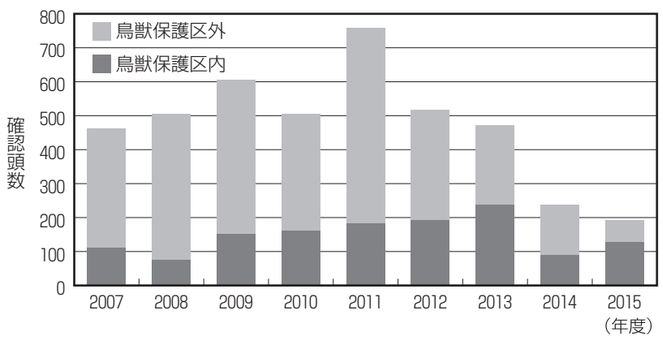
▲ヘリコプターから地上のエゾシカを数える職員

エゾシカの調査・対策

エゾシカ個体群の動態に関する調査業務 環境省/C10

知床半島内の重要なエゾシカ越冬地の一つとなっている斜里町真鯉地区において、国道上からのエゾシカ日中カウントを冬期間に計6回実施しました。調査日はいずれも可猟期間外（休猟期間内）に設定しました。シカの確認頭数は2月中旬が最多となり、227頭でした。最大確認頭数は2013年度が472頭、前年度が238頭でしたので、同地区のシカは依然高密度状態を維持していると考えられます。また、遺産地域内外において、エゾシカ捕獲事業がエゾシカの行動に及ぼす影響などを把握するため、2014年度の冬にGPSイリジウム首輪（酪農学園大より借受）を装着したメス成獣2頭の追跡を実施しました。それぞれ放獣地点周辺のごく狭い範囲で行動していましたが、2015年夏から秋にかけて2台とも電池が切れてしまいました。そのため、冬期の囲いわなによる再捕獲・首輪回収を試みましたが、わなの近くまでは来ていたものの、わな内に入らず、再捕獲できませんでした。また、ルシャ地区において前年度に麻酔銃で捕獲してGPS首輪を装着した計10頭のメスジカについて、行動範囲を調査しました。その結果、1頭が夏期に数日間だけ羅臼側に移動していましたが、基本的に10頭すべてが1年中、ルシャ地区の中のごく狭い範囲でのみ行動していました。

真鯉地区の国道沿い（約 8.5km 区間）でカウントされたエゾシカの数



エゾシカ生息密度操作関係業務 環境省/C8,C9 林野庁/E2,E3,E4

今年度も冬期間の一大事業として遺産地域内外のエゾシカ捕獲に取り組みました。岩尾別大型仕切柵を含めて囲いわなを9基、箱わなを3基稼働させ、道路を閉鎖して銃による捕獲を行う流し猟式シャープシューティングを2ヶ所、遠距離狙撃等を斜里町内の国有林3ヶ所で行ったほか、厳冬期にヘリコプターで知床岬へ行き、仕切柵を利用した巻狩りも実施して捕獲しました。3月末までに斜里町内と羅臼町内の囲いわなで277頭、箱わなで11頭、シャープシューティングで61頭、遠距離狙撃で4頭、巻狩りで15頭、さらに知床岬で34頭の、計402頭を捕獲しました。

▲箱わな

エゾシカ航空センサス調査業務 環境省/C11

2011年以来5年ぶりに、知床半島のほぼ全域をカバーするエリアでエゾシカの航空カウント調査を、ヘリコプターを用いて実施しました。半島全体の調査区30区画で319群1,725頭のエゾシカを発見しました。エゾシカの発見頭数は、5年前と比べて半島西側で減少傾向、同東側で横ばいの傾向でした。現在の知床半島内でエゾシカの越冬密度が最も高いエリアは、遺産地域内かつエゾシカ捕獲事業を実施していないルシャ地区でした。

エゾシカの採食による植生への影響調査業務

エゾシカの捕獲事業を知床岬地区、幌別・岩尾別地区及びルサ・相泊地区で実施中ですが、これら事業の最終的な目的は各地の植生の回復です。その成果を測るため、エゾシカの密度低下後の植生の変化を調べたり、それを長期的に見守るための指標の開発が行われたりしています。2015年度、知床財団では「さっぽろ自然調査館」による知床岬地区の調査（林野庁事業）の現地サポートを実施しました。

地元向けニュースレター▶

▲ヒグマ保護管理方針検討総括会議の様子

会議運営

科学委員会運営業務 環境省/C4

知床世界自然遺産地域を適切に管理するために、科学委員会会議やその付属会議によって科学的な見地から行政への助言が行われています。そのうち、知床財団は科学委員会とエゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ会議の運営事務局として、日程調整、会場準備、資料作成、議事録作成、地元向けニュースレター作成などを担いました。

また、本業務において2014年度の遺産地域の管理に関わる取り組みをまとめた年次報告書である「知床白書」の一部を執筆しました。

科学委員会報告会支援業務 環境省/C5

知床世界自然遺産地域の登録10周年に合わせて、知床科学委員会の委員等4名を招聘し、7月5日に斜里町で一般向けの講演会「世界遺産10周年セミナー」を開催しました。

▲世界遺産10周年セミナーの様子

ヒグマ保護管理方針等検討業務 環境省/C7

斜里、羅臼及び標津の3町を対象としている「知床半島ヒグマ保護管理方針」の第1期5年間を総括する会議の運営、現行方針の評価、次期方針の検討などを行いました。

日露隣接地域交流推進委員会運営業務 環境省/C13

日本とロシアの協力プログラムに基づき、知床世界自然遺産地域を含む両国の隣接地域での共同研究、情報交換を推進しながら、自然環境や生態系の保全に資することを目的とした推進委員会（環境省事務局）の会議を運営しました。また、2015年度に実施された北方四島専門家交流の成果や日露プログラムに基づく調査研究の成果についての報告会を運営するとともに、隣接地域での生物調査・研究について情報を収集し、整理しました。

▲羅臼で保護されたオオコノハズクの幼鳥

その他

自然環境対策業務（斜里町） 斜里町/A4

知床国立公園内外において、自然環境を保生していく上で問題となることや重要な情報を把握するためパトロールを行いました。

ゴミの不法投棄は32件あり、多くは食品の包装や容器などでした。国立公園内の幌別地区では衣服入りの段ボールが不法投棄されていた事例もありました。キツネなど野生動物への餌やり行為は、直接職員が目撃して公園内で利用者指導を行った事例が9月に1件ありましたが、キツネの行動を見る限り頻繁に行われている可能性が高く、継続的な普及啓発が必要な状況です。

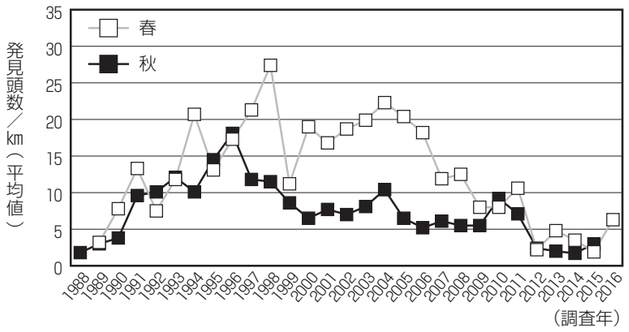
また、冬期にはウトロ市街地のコンビニエンスストア周囲などで外国人観光客によるキツネへの餌やり行為が目立ち、多言語の注意掲示に対応しました。サケ・マスの遡上シーズンには、釣り人に対してゴミや魚の管理徹底を呼びかける注意看板を、幌別川河口などに例年どおり設置しました。なお、前年度に引き続き、2015年度もフンベ川河口の駐車帯に幌別川と同様の閉鎖期間が設けられました。

野生鳥獣死体の処理件数は28件あり、珍しいものでは11月に窓に衝突死したギンザンマシコが回収されました。

幌別台地および岩尾別台地の道路沿いでは、春期と秋期に各5日間集中で、エゾシカのライトカウント調査を実施しました。

▲交通事故にあったキツネ

岩尾別台地におけるエゾシカライトカウント調査の結果

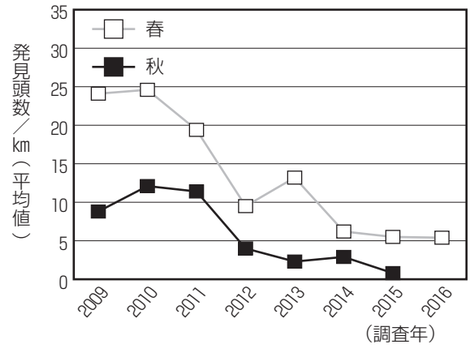


自然環境対策業務（羅臼町） 羅臼町/B4

町内各地区で実施した計30回のパトロールでは、路上などに不法投棄されたゴミを複数回発見、回収しました。

傷病鳥獣の対応は38件ありました。そのうち、希少鳥類のオオワシとオジロワシへの対応は計7件でした。また、特定外来生物に関する情報収集や捕獲作業を行い、セイヨウオオマルハナバチの捕獲を実施したほか、アメリカミンクについての目撃情報が2件ありました。エゾシカのライトカウント調査は、春期に4回と秋期に5回、ルサー相泊地区で継続実施しており、この地区では減少傾向が続いています。

羅臼におけるエゾシカライトカウント調査の結果



サケ科魚類遡上状況調査 北海道/D1 林野庁/E1

知床の生態系の陸と海を繋ぐ重要種として位置づけられているサケ科魚類の遡上数と産卵床数について、モニタリング調査を実施しました。対象河川は斜里町側のルシャ川とテッパンベツ川、羅臼町側のルサ川です。遺産登録後、数年に一度の調査が行われてきましたが、いずれの河川でも遡上数と産卵床数はともに最も少ない結果となりました。調査結果は、知床世界自然遺産地域科学委員会河川工作物アドバイザー会議で報告しました。

▲サケ科魚類の産卵床調査実施の様子

▲ドローンによるトドの遊泳群撮影を試みる職員

その他

希少鳥類などの長期モニタリング業務

知床のオジロワシの繁殖状況に関わる調査員によって構成されている「オジロワシモニタリンググループ」の事務局を引き続き担い、情報の集約と会議運営をしました。また、当財団が調査担当となっている営巣木については、当年の営巣の有無や雛数等について調査を実施しました。また、羅臼町内で糞や騒音等が問題となっているオオセグロカモメについて、基礎的情報を収集することを目的とした営巣数調査や足環標識による移動追跡調査を行ったほか、観光船による餌やりという課題を抱える海ワシ類については、餌の量と海ワシ類の分布の関係や、観光客の満足度等について調べました。

▲羅臼の冬の風物詩であるワシのなる木

海生哺乳類モニタリング

冬期にトドの来遊海域となっている羅臼町から標津町北部の沿岸において、陸上の定点からのカウント調査を継続しました。今年度冬期の最大確認頭数は、2015年12月20日の88頭でした。ただし上記の日も含めて、調査実施日に観察船や駆除船による攪乱をトドの群れが受ける機会が数年前よりも増えてきました。そのため、ドローン（無人航空機）による上空からの撮影を併用し、群れに含まれている標識個体の割合から全体数を推定する新たな手法（標識再捕法）も試みましたが、この方法による年末年始の推定来遊頭数は74～131頭で、直接カウント法と大きな差は出ませんでした。また2月初旬には国後島のクリリスキー自然保護区の研究員と連絡を取りあい、知床沿岸と国後沿岸で同じ日にトドをカウントする試みを初めて実施しました。今年度の冬期に標識個体は計8頭を確認し、すべて中部千島で出生した個体でした。そのうちのオス成獣1頭は、知床で確認された日の3ヵ月後に、色丹島で発見されたことがロシア側研究者からの連絡で判明しました。

水域における生物群集モニタリング

羅臼町の深層水汲み上げ施設で、前年度に引き続き各種生物を収集しました。また、2012年に国後島と択捉島で採集した魚類と貝類についても同定を進めました。深層水の貝類と国後・択捉の貝類については、採集種のリストを取りまとめ、5月に日本貝類学会で発表しました。

学術的な交流と成果公表

学会発表

○野別貴博（知床財団），山崎友資（蘭越町）．国後島および択捉島で確認された貝類．日本貝類学会北海道蘭越　2015年5月

○Tsuyoshi Ishinazaka, Yasushi Masuda, Masami Yamanaka
Conservation and management of sika deer in Shiretoko National Park.
The International Wildlife Management Congress 2015　Sapporo, Japan.　2015年7月

○Masami Yamanaka, Yasushi Masuda, Tsuyoshi Ishinazaka
Recent advances and challenges in the conservation and management of brown bears in Shiretoko National Park.
The International Wildlife Management Congress 2015　Sapporo, Japan.　2015年7月

○敷田麻実（北大），能勢峰，秋葉圭太（知床財団）観光資源化する野生動物との新たな関係．世界遺産知床におけるヒグマ問題．「野生生物と社会」学会 沖縄大会　琉球大学（那覇）　2015年11月

○能勢峰（知床財団）観光資源化した知床のヒグマの現状とリスク管理の多様化．「野生生物と社会」学会 沖縄大会　琉球大学（那覇）　2015年11月

▲「野生生物と社会」学会の沖縄大会での発表

▲JBN会員向けニュースレター「Bears Japan」

その他

学会ポスター発表

○川南拓丸（岩内町），野別貴博（知床財団），山崎友資（蘭越町）．北海道の海洋深層水汲取り施設から汲み上げられる貝類．日本貝類学会　北海道蘭越　2015年5月

○Ryoma Murakami, Takane Nose, Tsuyoshi Ishinazaka, Yasushi Masuda, Masanao Nakanishi, Hideaki Okada, Masami Yamanaka, Koichi Kaji
An evaluation of body mass and hind foot length as indicators of population monitoring in Hokkaido sika deer.
The International Wildlife Management Congress 2015　Sapporo, Japan.　2015年7月

○Michito Shimozuru, Jun Moriwaki, Masami Yamanaka, Masanao Nakanishi, Tsuyoshi Ishinazaka, Shinsuke Kasai, Takane Nose, Yasushi Masuda, Toshio Tsubota
Reproductive parameters and male dispersal of brown bears in the Rusha area of Shiretoko National Park, Hokkaido, Japan.
The International Wildlife Management Congress 2015　Sapporo, Japan.　2015年7月

学術誌

○Daichi Arima, Atsushi Yamaguchi, Takahiro Nobetsu, Ichiro Imai (2016)
Usefulness of deep-ocean water pumping for the seasonal monitoring of mesozooplankton.
Regional Studies in Marine Science (3) 18-24.

○Daichi Arima, Atsushi Yamaguchi, Takahiro Nobetsu, Ichiro Imai (2016)
Seasonal abundance, population structure, sex ratio and gonad maturation of *Metridia okhotensis* Brodsky, 1950 in the Okhotsk sea: analysis of samples collected by pumping up from deep water.
Crustaceana 89 (2) 151-161

○山崎友資，野別貴博，芳賀拓真，千葉　晋，園田　武（2015）
ロシア国サハリン州サハリン島から確認された貝類：特にカモメオオノガイ（新称）とチヂレカモメガイ（新称）について
ちりぼたん 45 (4) 262-283.

紀要・報告書

○石名坂豪（2016）知床地域のエゾシカの保全と管理．知床博物館研究報告 特別号1: 25–34.

○山中正実，増田泰，石名坂豪（2016）知床国立公園におけるヒグマの保護管理の近年の進展と課題．知床博物館研究報告 特別号1: 55–78.

知床ゼミ

外部研究者や職員を発表者とした勉強会を計8回開催しました。職員や関係機関等を含め、のべ230名ほどの参加がありました。

シホテ・アリンとの世界遺産交流

2015年7月末に札幌で開催された第5回国際野生動物管理学術会議（IWMC 2015）において、ロシア沿海州のシホテ・アリン自然保護区の副所長を招聘し、知床にも再訪いただく予定でしたが、先方の都合によりキャンセルとなりました。また、今年度は知床からシホテ・アリンへの訪問はありませんでした。

ＪＢＮ業務 JBN/F3

日本クマネットワーク（JBN）からの受託業務として、JBN会員向けニュースレター「Bears Japan」の発送、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」の発行及び販売、JBNのHPの運営管理を行いました。年3回発行のJBN会員向けニュースレター「Bears Japan」は会員や関係機関に、のべ889件発送しました。また、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」については、店頭及び通信販売を通じて計46部を販売しました。HPについては、日常的な掲載内容の更新を中心に、幅広い運営業務をJBN事務局と連携して実施しました。

日本クマネットワークは、個人や地域ごとの単独の活動だけでは難しい全国レベルの諸問題や国際問題に関して、必要に応じて社会に対して働きかけを行い、人とクマのより良い関係を構築する活動を行っているNGO組織です。会員は専門家やクマに関心を持つ一般市民、およそ300名で構成されています。

公益事業 国立公園管理事業

▲フレペの滝遊歩道で植物を
標本採集する職員

▲宇登呂灯台に登る「フレペの滝と灯台トーク」
参加者

施設の管理・運営

知床自然センター

施設の管理と運営 斜里町/A1

知床自然センター及び周辺施設の維持管理、映像展示館（ダイナビジョン館）の運営と料金徴収等の業務を行いました。2015年度の知床自然センター入館者数は147,351名で、前年度比86.5%となりました。また、映像展示館入館者数は12,526名（前年度比61.0%）、売上は4,691,255円（前年度比64.1%）で、いずれも前年度を大きく下回っています。これは、リニューアルに伴う改修工事のため、10月26日から知床自然センターが休館となり、仮設店舗での営業だったことが理由と考えられます。

▲改修工事中の知床自然センター仮設店舗

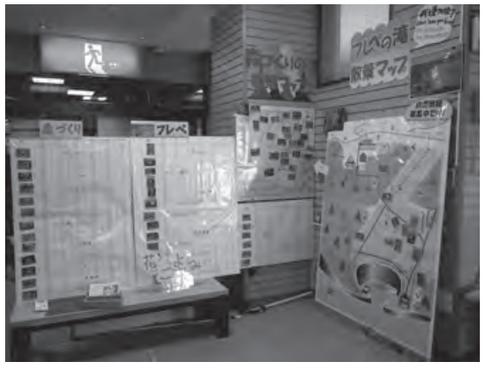
レクチャー・キャンペーンの実施

ゴールデンウィークや夏休み期間中、知床の自然の魅力や課題を分かりやすく伝える20分ほどのレクチャーを31回実施し、431名（前年度実績415名）の参加がありました。地域で取り組む知床ヒグマエサやり禁止キャンペーンの一環として、メッセージボードを館内に掲示し、来館者にメッセージを書いていただきました。ヒグマと人との共存についての特別展示とモニターを設置し、「しれとこのきょうだいヒグマ『ヌプとカナ』」の絵本上映も併せて行いました。

▲知床自然センター館内でのレクチャー

自然情報の収集と発信

フレペの滝遊歩道及び知床自然センター周辺における自然情報収集を定期的に実施し、インフォメーション業務や自然情報ブログ、館内展示に積極的に反映しました。フレペの滝遊歩道の植生や開花状況を調査し、標本採集も行う「フロラ・オブ・フレペ」プロジェクトを2014年度に引き続き実施しました。この調査から得られた情報をもとに、リアルタイムな開花情報をブログで公開するとともに、館内に設置した花暦の展示を随時更新しました。



▲知床自然センター館内の花暦展示

イベントの実施 北海道/D2

9月19日から27日のシルバーウィーク期間には、「今年の秋はフレペに行こう！」をテーマとしたイベントを実施しました。このイベントは、北海道オホーツク総合振興局の委託業務として開発した「フレペの滝デジタルガイドマップ」の運用試行を兼ねたもので、散策レクチャーやシステムの紹介を行い、新たなフレペの滝遊歩道の楽しみ方を提案したものです。レクチャーの参加数は923名となり、外国人を含めた多くの利用者がスマートフォン等でデジタルガイドを活用した散策を楽しみました。

また9月25日には、紋別海上保安部の協力により、フレペの滝と宇登呂灯台を見学する「フレペの滝と灯台トーク」を実施し、20名の参加者が灯台からの景色を楽しみました。

▲「今年の秋はフレペに行こう！」でレクチャーを
受ける参加者

▲野外で地図を読む自然観察会を行う職員

▲羅臼ビジターセンターの特別展示「海藻展」

施設の管理・運営

募金・寄附獲得の取り組み

館内2ヶ所に募金箱を設置し、募金の呼びかけを行いました。シカ角の破片やかつて映像展示していたフィルムを加工したハンドメイドのしおり等を置いて、募金のお礼の品としました。その結果、2015年度は総計494,548円の募金をいただきました。また、レクチャー等の実施時には、併せて知床財団の活動ＰＲも行い、37,080円の募金をいただいています。

知床自然センターリニューアルに向けて

全面改修工事のため、10月26日から翌4月19日まで知床自然センターは臨時閉館し、仮設店舗で営業を行いました。改修後のリニューアルオープンに向け、以前から継続して検討してきた企画案をもとに、具体的なアクションプランを立案し、係横断的に編成した作業チームを中心に準備作業を行いました。

リニューアルにあたっては「フィールドを知り、楽しむための国際ビジターセンター」をコンセプトに、国立公園のフィールドを楽しむための「拠点機能」と、ゆっくりと休憩し楽しめる「滞留機能」の強化を目標としました。利用者サービス、情報提供、館内展示、映像ホール及びレクチャー等の運用等について、施設の改修とあわせたサービスの刷新に向け準備を行いました。

羅臼ビジターセンター

羅臼ビジターセンター管理運営業務 環境省/C1 羅臼町/B1

羅臼ビジターセンターの来館者数は、前年度比117.8%の41,634名となり、これまでで最多となりました。知床国立公園内の羅臼町側の主要な利用拠点（羅臼湖、羅臼岳、熊越えの滝、羅臼温泉園地等）の自然情報、利用状況や野生動物の生息状況等を収集する巡視を実施し、館内での情報提供に活用しました。また、カウンターでの情報提供のほかに自然観察会を5回、特別展示を6回、例年どおり開催しました。このほか、ビジターセンターに隣接する間歇泉の噴出時刻を予測し、来館者に提供しました。

レクチャーと展示

来館者に対し、自由に展示物を見ていただくだけではわからないストーリー性や奥行きのある自然解説を行うため、20分ほどのレクチャーを適宜実施しました。2015年度は特に、特定外来種となっているセイヨウオオマルハナバチの生態や駆除活動についての解説、羅臼の漁業にかつて欠かせなかったガラスの浮き玉の編み方を体験していただきながら、漁業についての解説を実施しました。

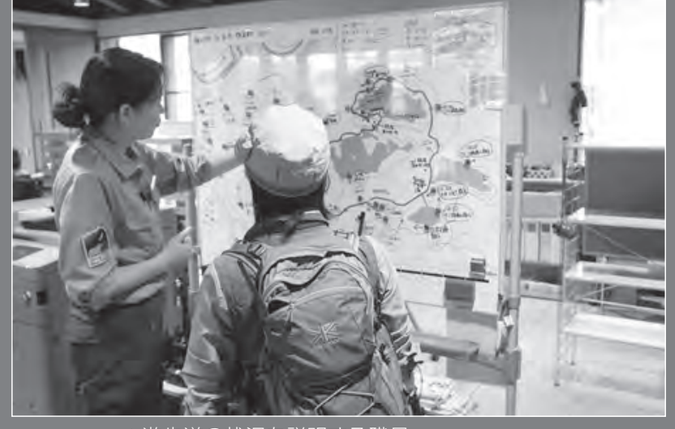
レクチャーは、特に来館者が多く見込める夏休み期間に集中して行い、計10回、73名の方にご参加いただきました。

▲羅臼ビジターセンターの周りでマルハナバチについてレクチャーする職員

知床自然教育研修所 斜里町/A1

知床自然教育研修所の維持管理を行いました。2015年度は、外部研究者やボランティア活動参加者を中心に1,068人泊の利用があり、462,500円を施設利用料金として徴収しました。

▲知床自然教育研修所で寝食を共にするボランティアの方々


▲遊歩道の状況を説明する職員

▲知床五湖フィールドハウスのカウンター

施設の管理・運営

知床五湖園地

施設の管理と運営 斜里町/A2

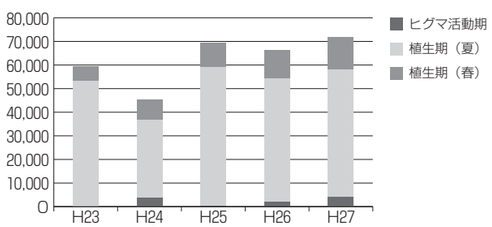
知床五湖園地への給水設備の維持管理を行いました。4月上旬に水源地から園地までの通水作業を行い、11月中旬に停水するまでの間、給水設備の維持管理を実施しました。また、ヒグマに対する安全管理や駐車場でのオートキャンプ等の不適切な利用を防止するため、知床五湖園地の夜間閉鎖を実施しました。

知床五湖利用調整地区の運営 環境省/C15 知床ガイド協議会/F2

2011年より開始した知床五湖の利用調整地区制度は5年目を迎えました。新制度はヒグマに関するリスク管理体制、観光地における認定ガイド制度など、様々な面で先進的な取り組みとして注目を集めています。知床財団は制度運営の要となる指定認定機関（環境大臣指定）として制度全体の運用を担っています。

2015年度の立ち入り認定者数は7万人を超え、過去最高実績を更新しました。特にヒグマ活動期の実績は好調で、外国人利用者の増加が目立っています。期間中1万人を超える利用者がガイドツアーに参加しており、知床五湖がエコツアーの発信地となりつつあります。また、制度案内とガイドツアーの紹介を一体的に行う必要があることから、知床ガイド協議会からの委託事業としてガイドツアーの紹介や当日のツアー参加希望者への受付サービスを継続しています。ヒグマの出没数は2012年に次ぐ件数であったものの、制度のメリットを活かした安定的な運用を実現することができました。

知床五湖利用調整地区の立入実績



知床五湖フィールドハウスの運営 環境省/C3

地上遊歩道の入り口にあたる知床五湖フィールドハウスには、4月から10月まで職員が常駐し、総合案内、散策希望者への事前レクチャー等を実施しました。知床五湖の魅力発信にも努め、園地全体のジオラマや利用調整地区制度の解説パネルを館内に設置し、制度説明や遊歩道の状況、自然情報の提供に活用しました。また、来館者の多様なニーズに対応するため、英語表記に加え絵文字（ピクトグラム）を用いた情報発信を行いました。専用のwebサイトでは、ガイドツアーの予約受付やリアルタイム情報の発信も行いました。

▲知床五湖フィールドハウス内に設置した職員手作りのジオラマ

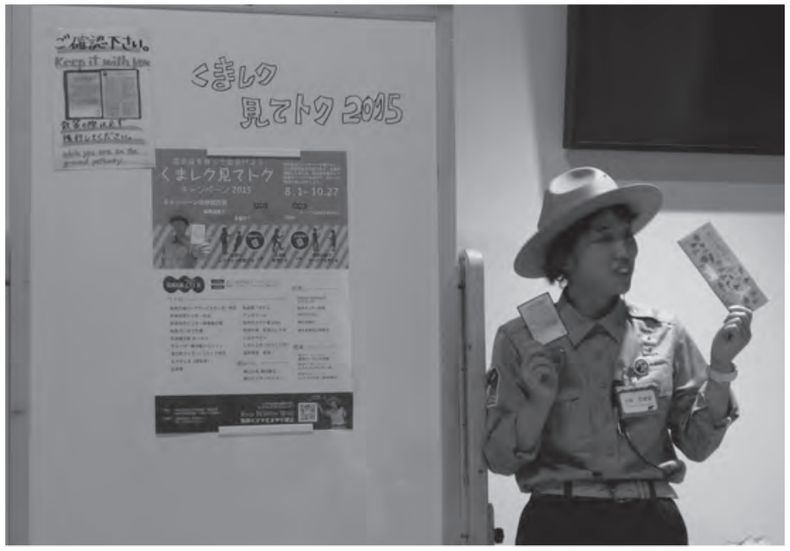
▲「ルサ・カフェ」の入口看板

施設の管理・運営

利用推進のための普及キャンペーンの実施

知床五湖の新たな利用システムを広く地域の皆さんに体験してもらうため「知床五湖ローカル割引キャンペーン」「くまレク見てトクキャンペーン」の2つの企画を実施しました。ローカル割引キャンペーンでは、斜里・羅臼の両町民に対し、通年で地上遊歩道の認定手数料を実質0円で楽しめるサービスを提供しました。2015年度は、前年度14%増となる136組305名の参加がありました。

くまレク見てトクキャンペーンでは、知床五湖の新制度に賛同する協賛店舗を地域から募集し、地上遊歩道の利用者が協賛店舗で特典を受けられるサービスや店舗スタッフ向けのガイドツアー等を企画しました。2015年度は、26の地元店舗にご協力いただき、3,235名以上の方がキャンペーンを利用しました。



▲「くまレク見てトクキャンペーン」を説明する職員

ルサフィールドハウス

ルサフィールドハウス管理運営業務 環境省/C2

ルサフィールドハウスは、2015年度より利用者の少ない冬期に閉館することとなり、開館期間は4月から10月の7ヶ月間となりました（前年度は4月から10月及び2月から3月の9ヶ月間）。来館者数は7,388名で、前年度比は116.6%でした。知床半島先端部地区へ立ち入る利用者に対しては、引き続きルールを含めた最新情報や留意点等についてレクチャーしました。

情報提供と展示

知床半島中央部地区及び先端部地区利用者に対し、立ち入る際の留意事項と禁止事項等についてレクチャーを実施しました。一般来館者へは施設展示を活用しながら、数多くの鯨類が利用している羅臼の海の豊かさ、新しく作成した昆布漁等についての展示等について解説を実施しました。

ルサ地区活用検討業務

前年度、本事業で実施したルサフィールドハウスと周辺地区の利活用の検討の中で、飲食サービスを提供する提案がありました。この提案を受け、2015年度はルサフィールドハウス来館者の増加と知名度の向上を目指し、館内で飲食を提供する「ルサ・カフェ」を9月9日から14日にかけて試行しました。6日間で飲み物250杯、アイス45個、鮭とば50個、お菓子235個を販売し、多くの来館者があったとともに、町民にも好評な取り組みでした。

▲知床半島先端部利用者にレクチャーする職員

▲ホエールウォッチング船を他船から専門家とともに調査している様子

▲カムイワッカ湯の滝を利用する観光客

公園利用の適正化

知床国立公園における海域利用適正化推進業務 環境省/C14

知床国立公園やその周辺海域の適正な利用を図るため、当該海域においてホエール・バードウォッチングを行う観光船に専門家と同乗し、観光船が作成したホエールウォッチング自主ルールの遵守状況や船の運航上の改善点、レクチャーの実施状況等を調査しました。また、各船共通のモニタリングのための調査用紙を作成し、回収した結果をとりまとめました。冬期には当該海域における観光船による海ワシ類への餌付けに関する観光船事業者によるモニタリング結果を同様にとりまとめました。

カムイワッカ地区の運営 知床国立公園カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会/F1

2015年度もカムイワッカ地区は、マイカー規制期間と自由通行期間が交互に切り替わる利用体制となり、現地での交通渋滞や混乱を避けるため関係者間の調整が必要でした。同地区で行われているマイカー規制の現地連絡調整業務を受託し、知床自然センターを拠点に現地運用の円滑化のためバス会社や各地に配置された警備員や監視員との連絡調整、利用状況の調査や利用者への情報提供、ヒグマ出没時の連絡整理、負傷者への対応などを行いました。

今年度は、重大な交通事故や山岳遭難等のトラブルもなく、安定的な現地運用を行うことができました。

知床GISデータベースの作成

知床半島の自然情報や各種調査結果などのデータを位置情報に基づいて取りまとめるGIS（地理情報システム）データベースの構築を進めています。2015年度はしれとこ100平方メートル運動地の植生図、シカの生息密度など各業務で作成しているデータをマップ化する作業を進めました。また公開データの著作権の扱いなど、情報公開のための基準作りについて協議しました。

知床エコツーリズム総合推進事業

適正利用・エコツーリズム検討会議への参画

私たちは、よりよい公園利用のあり方を目指し様々な協議や試行事業に参画しています。適正利用・エコツーリズム検討会議（世界遺産科学委の専門家と地域関係団体との合同会議）では、知床エコツーリズム戦略の本格的な運用が始まっています。地域提案型の利用のあり方やルール作りの仕組みが確立されつつあり、知床財団は提案された検討部会、実施部会すべての場に参画しています。

当財団は、9月に開催された同会議に「外国人旅行者向け情報発信の強化」を目的とした取り組みを提案し、検討部会の立ち上げが承認されました。今後は、検討部会の場で具体化に向けた協議を継続していきます。

協議会・会議等の運営 環境省/C12

知床五湖やカムイワッカなどの主要な観光地の利用のあり方を協議する場として、適正利用・エコツーリズム検討会議の個別部会である「知床五湖の利用のあり方協議会」「カムイワッカ部会」が設置されています。知床財団は環境省からの委託を受け、これらの協議会の運営事務局を担い、地域の合意形成に努めました。さらに、利用調整地区制度導入後5年間の知床五湖におけるヒグマ遭遇状況のとりまとめや、外国人利用者を対象とした利用者意向アンケートの作成等、協議の基礎資料となるモニタリングデータの取りまとめ等も行っています。

▲「知床五湖の利用のあり方協議会」の様子

公益事業 森林再生系事業

▲冬場の樹皮保護ネットの点検

しれとこ100平方メートル運動森林再生業務 斜里町/A5

斜里町主催「しれとこ100平方メートル運動」の開始から38年、新運動「100平方メートル運動の森·トラスト」として原生の森の再生に向けた取り組みが始まり18年が経過しました。知床財団は、森づくりやしれとこの森交流事業など100平方メートル運動に関わる現地業務を担っています。

森林再生作業

春から夏にかけて、苗畑での除草や苗木の根づくりを行い、苗畑で育成したミズキなど樹高3～6メートルの中型の苗7本を「森づくりの道・シカ柵内」に移植しました。防鹿柵の補修作業では、2003年に設置した運動地内で最も広い柵（約5ha）の木柱の老朽化が進んでいるため、鉄柱に更新していく作業にも着手しています。また、過去に巻いた約800本の樹皮保護ネットの点検作業を行い、その内608本の現状を確認しました。その他、秋には、同じく苗畑で育成したミズナラなど樹高6m以上の大型苗9本に樹皮保護ネットを巻いて、柵のない場所に移植しました。

2018年度には、本格的な森づくりの開始から節目の20年を迎えることから、次期20年間の目標立案に向けた準備を進めています。その一環として、森づくりの成果を測る指標となる最新の林相図の制作にも着手しました。

なお、長きにわたり「森の番人」として森林再生作業に携わっていた橋本勝氏は、今年度末をもって勇退されました。今後も「森の番人」から引き継いだ技術や知見を活かし、森づくりを進めていきます。

▲苗を移植する職員

しれとこの森交流事業

森づくりの現場と運動参加者をつなぐ交流事業として「第36回知床自然教室」（7月30日から8月5日、参加者31名）、「第19回しれとこ森の集い（植樹祭）」（10月18日、参加者79名）、「第19回森づくりワークキャンプ」（10月30日から11月4日、参加者15名）の企画、運営を行いました。

「森の集い（植樹祭）」では、防鹿柵外に苗畑で育成したトドマツの苗木244本を植え付けています。近年では、広葉樹を柵内に植樹していましたが、各防鹿柵内への植樹が完了したことから、今回より柵の外にシカの嗜好性の低い針葉樹（トドマツ）の苗木を用いた植樹を行いました。

▲第36回知床自然教室の様子

▲森林再生専門委員会議の様子

森林再生専門委員会議運営

森づくり作業の方針や計画は動植物の専門家と地元の有識者で構成される森林再生専門委員会議の場で議論が行われ、その方向性などが定められています。知床財団では、今年度の活動の成果と課題をまとめるとともに、次年度の森づくり作業の具体的な方針や計画案を斜里町と検討を重ねながら立案しました。

11月に開催した森林再生専門委員会議では、森林再生作業の進捗報告のほか、次期20年間の方針や目標策定についての議論を行いました。なお、2016年度は、次期20年間に向けた計画の確定など重要な年になることから、特例として同会議を2回開催する予定となっています。

運動地広報企画

100平方メートル運動の広報誌「しれとこの森通信No.18」（A4判カラー12ページ）の企画及び編集作業を行いました。また、斜里町民向けに運動の状況を伝えるチラシ「しれとこの森通信ミニ」（季刊）を作成し、町の広報誌に折り込み配布も行っています。

その他、運動のHPでは日々の作業状況を発信するとともに、イベントやボランティア募集の媒体としても活用しています。

▲しれとこの森通信

しれとこ100平方メートル運動普及推進業務

本業務は、斜里町主催「100平方メートル運動の森・トラスト」の安定的な継続と発展を図るため、運動の普及と推進を目的に、運動の現地業務を担う知床財団が斜里町と連携を図りながら独自事業として取り組んでいるものです。

普及推進業務

知床自然センターに隣接する運動地公開コース「しれとこ森づくりの道」の開設運営を行いました。2015年度は、新規の取り組みとして、コース沿いの代表的な木々に樹名板などを取り付けたほか、「樹皮保護の変遷」や「さまざまな防鹿柵」など森づくり作業の一端を紹介する実物展示の設置を行いました。5月から11月末での開設期間にこのコースを訪れた利用者は、2,382名でした。

教育機関を対象に行った取り組みでは、ウトロ小中学校や斜里高校での授業のほか、日本赤十字看護学校（北見）を受け入れ、100平方メートル運動や開拓の歴史などを紹介しました。また、新規の取り組みとして、斜里及び朝日小学校の4年生に対して運動を伝える授業を実施しました。

合宿形式のイベントとして、「知床森づくりの日」を春と秋の2回開催し、計11名の参加がありました。

▲斜里小学校の学生を対象に100平方メートル運動を説明する職員

公益事業　指定寄附金事業

▲防鹿柵設置の様子

▲岩尾別川沿いでの植生調査

▲岩尾別川での魚類調査

知床世界自然遺産地域保全事業

本事業はダイキン工業株式会社様からのご支援を受け、ダイキン工業株式会社・斜里町・羅臼町・知床財団の四者協定のもと、実施いたしました。

DAIKIN

知床の人とヒグマの共存事業

知床半島先端部地区におけるヒグマ個体群の保護管理および羅臼町住民生活圏へ与える影響に関する研究

斜里町ルシャ地区を利用するヒグマを目視と遺伝子分析によって個体識別し、個体間の血縁関係やルシャ地区の外への移動分散状況などを調査しました。分析試料はヘアトラップにより採取した体毛、麻酔銃ダートバイオプシーによる皮膚組織片、回収した新鮮クマ糞などから得ました。また、自由に野外を歩き回っている4頭のメス成獣のヒグマを麻酔銃で生け捕りにし、GPS首輪の新規装着や回収等を実施しました。2015年に斜里町と羅臼町で捕獲されたヒグマ65頭のうち、4頭がルシャ生まれの個体でした。この事業は、北海道大学及び知床博物館と共同で実施しています。

▲組織片を採取するための注射器を麻酔銃で撃つ様子（提供：知床博物館）

▲ダートがお尻に命中したヒグマ（提供：知床博物館）

羅臼町における地域住民とヒグマの安全安心・共存プロジェクト　羅臼町/B2

羅臼町は、2011年度からダイキン工業株式会社様からのご寄附により電気柵の設置を進めています。知床財団は、これら電気柵の設置を羅臼町からの業務委託として実施しています。今年度は、市街地南側（緑町から羅臼小学校の区間）に野生動物対策フェンス及び電気柵を新設し、当初予定していた全区間での電気柵設置が終了しました。

カツラの森、命あふれる川の復元事業

河畔林・河川の自然再生　斜里町/A6

2011年度から2015年度の5年間、「カツラの森、命あふれる川の復元事業」として、岩尾別川沿いの河畔林の復元と河川環境の改善に向けた作業を行いました。

事業最終年にあたる2015年度は、前年度に引き続き岩尾別川沿いの河畔林にて、防鹿柵の設置作業を実施しました。この5ヶ年で河畔の森や河原を囲う計3基（総延長計約1.2km）の防鹿柵を設置することができました。

その他、岩尾別川沿いの防鹿柵内で2014年度に植え付けたカツラ苗の管理作業を実施しました。冬期の積雪により、苗木の一部で枝が折れる現象が発生し、ネズミ類による幹や枝への被食も確認されましたが、多くの苗木は順調に育っています。

河川環境の改善に向けた取り組みでは、これまで行った作業の効果検証を目的とした空撮及び測量を実施しました。試行錯誤を繰り返しながらも作業を行った結果、いくつかの場所では、人為的に狭められていた河道を広げることでその後二俣に分かれた流路が形成されるなど、この川に適した環境が形成されつつあることが確認されています。また、この5年間を通して、今後の岩尾別川の環境改善を検討する上で必要な基礎的資料と知見を得ることができたことも大きな成果として挙げられます。

基礎調査・生物相復元

本事業では、岩尾別川流域で行われる各種作業の成果を科学的な裏付けをもって検証するため、対象となる生物種や河川環境について調査を行いました。

2015年度は、過去4年間に引き続き、同河川の定点観測ポイントにて、魚類の生息状況と河川構造の現状を把握する調査を行いました。また、岩尾別川沿いに設置している防鹿柵内外の植生調査も継続しています。

河川生態系の復元に関しては、100平方メートル運動において生物相復元対象種とされているカワウソの再導入についてその可能性の検討を進めています。2015年度は、カワウソの保護や導入を行っている欧州各国（イギリス・ポーランド・ドイツ）を訪れ、カワウソの生息環境の視察など海外事例の収集を行いました。今後はこれまでの調査や視察結果を取りまとめ、その結果をもとにカワウソを含めた生物相復元の方向性についてさらに検討を行います。

なお、これらの取り組みは知床博物館や東京農業大学など外部の研究者と連携を図りながら進めました。

収益事業

▲知床世界自然遺産10周年記念切手「海」

▲知床世界自然遺産10周年記念切手「森」

販売・有償貸出し業務

販売

知床自然センター及び羅臼ビジターセンターでは、知床の自然に関する書籍、散策の際に役立つアウトドアグッズ、自然環境に配慮した知床ならではのお土産、知床財団の活動普及のためのオリジナルグッズなどを販売しました。また、電話やファックス、電子メール等で注文を受ける通信販売も運営し、2015年度の販売売上はあわせて18,910,900円でした（前年度比136.18%）。

オリジナル商品の開発

知床財団の活動を広く知ってもらうことを目的に、オリジナル商品の開発を行いました。2015年度は知床世界自然遺産10周年を記念して、知床の生物多様性を広く一般の人々にアピールすることを目的に52円の記念切手シートを1,000枚、82円の切手シートを同じく1,000枚作成し、販売しました。記念切手の売れ行きはどちらも好調で、9月のシルバーウィーク期間中に完売しました。また、毎年制作している株式会社フェニックス様とのコラボレーションTシャツは今年度も好評で600枚以上の販売実績がありました。

オンラインショップの運営

オンラインショップ「コムヌプリ」の管理・運営を行い、2015年度は235件、1,046,913円の売上がありました。このうち知床財団の個人賛助会員の入会は118件（新規27件、更新88件、終身会員3件）ありました（前年度は合計134件）。

▲フェニックス様とのコラボレーションTシャツ

レンタルサービス

知床自然センター、羅臼ビジターセンター及びルサフィールドハウスで、ヒグマ撃退スプレーとフードコンテナの有料貸出を行いました。2015年度は、ヒグマ撃退スプレー281件、フードコンテナ18件を貸出しました。貸出の際には、契約内容や使用方法、ヒグマとの危険な遭遇を回避する方法についてスライド画像を用いて20分程度のレクチャーを行いました。

知床自然センターで長靴・双眼鏡の有料貸出を実施し、長靴1,268件、双眼鏡69件の利用がありました。冬期には、スノーシューの有料貸出も実施し、585件の利用がありました。

前年度から開始した羅臼ビジターセンターにおける長靴のレンタル業務では、60件の利用がありました。

羅臼研究支援センター維持管理業務

羅臼研究支援センターでは、施設の維持管理のほか受付や協力金徴収を行い、外部研究者を中心にのべ21名、405泊の利用がありました。

研修・講演・視察対応業務

全国の各種団体から依頼された講演、レクチャー、行政視察、執筆等に対応することにより、知床の価値を紹介、または、知床財団の持つ野生動物管理や調査研究、公園管理、環境教育のノウハウを広く発信、共有する活動を行いました。2015年度は3,166,403円の収入がありました。

▲北海道大学の実習の様子

▲「ヒグマと生きる未来を考えるフォーラム」の様子

収益事業

2015年度研修・講演・視察等対応実績

	内容	対象（依頼元）
実習	ヒグマ対策研修	定山渓自然の村 （公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会）
	「ヒグマに対するリスクマネジメント」	摩周・屈斜路パークボランティア講習会 （環境省　川湯自然保護官事務所）
	知床国立公園・世界遺産地域における野生動物の保全および人との軋轢に関する取組、森林再生事業	JICA研修 （特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所）
	知床における森林再生の取り組みの現状と課題	東京農業大学 生物産業学部生物産業学科 植物資源保全学研究室
	ヒグマ対策	釧路湿原パークボランティア講習会
	「世界自然遺産知床の価値と課題」ダイナビジョン映像鑑賞、100平方メートル運動の森・トラストの現地講義	日本赤十字北海道看護大学
	海城学園生物部　知床実習	海城学園生物部
	世界自然遺産知床の自然とその課題	北海学園大学
	世界遺産マネジメントと環境	JICAはまなす財団 （公益財団法人 はまなす財団）
	知床フィールド実習	酪農学園大学
	知床フィールド実習	北海道大学獣医学部
視察	知床の自然と北方四島	羅臼町
	世界自然遺産登録について	岐阜市議会
	「知床における生命の連環について」「世界自然遺産・知床の今、そしてこれから」	緑の探検隊
	先進的な野生生物管理について 自然環境の保護と利用のバランスの取れた取組について	長崎県議会環境生活委員会
	自然資源を保全・活用した観光開発の可能性について	宇検村商工会
	シカ・クマの駆除について	石川県中能登町区長会（東武トップツアーズ）
講演・特別講師・客員教授・アドバイザー	みどりフェスタ2015	斜里町
	ヒグマの基本的な生態、遭遇した時の対処法などについて	山洋建設株式会社
	知床の自然について	西武学園文理小学校4年生
	ヒグマの生態と環境教育	根室管内市町教育委員会教育委員
	知床の自然について	岡山県立岡山城東高等学校
	知床自然概論	北海道立斜里高等学校
	北海道知床におけるクマ人身被害対策の方法についての紹介及び本県日光市戦場ヶ原等の観光地における取組についてのアドバイス	栃木県環境森林部自然環境課
	施設概要　等	北見市第12民生委員児童委員協議会
	登山道整備に関するヒグマレクチャー	畑中産業
	知床における自然保全の課題および取り組みについて	釧路湖陵高等学校スーパーサイエンススクール （国立研究開発法人　科学技術振興機構）

	内容	対象（依頼元）
講演・特別講師・客員教授・アドバイザー	世界遺産に登録されている「知床」の「北方四島を含めた自然および生態系の保護と産業振興（観光・漁業等）」についての課題や対策について	電機連合（東芝ツーリスト㈱）
	アサヒHTB他起動フォーラム2015 「知床の明日を考える」	朝日新聞北海道支社
	工事関係者向けヒグマレクチャー	株式会社 つうけん 北見事業者
	北海道そして知床の素晴らしい自然環境について	北海道科学大学都市環境学科
	人口減少と地域創生を共に考える道民フォーラム	「人口減少問題を共に考える事業」事務局 （株式会社 ノヴェロ　内）
	知床五湖登録引率者登録試験	知床五湖登録引率者部会
	屋久島シカ捕獲手法検討調査業務	八千代エンジニアリング株式会社
	北海道観光を支える人材育成研修	北海道中小企業家同友会（一社）
	「野生生物と社会」学会	北海道大学
	日本の国立公園と知床について	明治大学
	ヒグマと生きる未来を考えるフォーラム	NPO法人 日本エコツーリズム協会
	身近な動物について知ろう～ヒグマってどんな動物？～	小学4年生から6年生 （一般財団法人 中標津町文化スポーツ振興財団）
	ヒグマなどの道東地区に生息する野生生物と私たちとのかかわりについて	小学4年生から6年生 （北見市 市民環境部 廃棄物対策課）
	世界自然遺産　知床の魅力、保全・管理とその課題第26回　テレビ部会地域会議 in 北海道　～札幌2016～	公益社団法人 日本照明家協会 北海道支部
	さっぽろヒグマフォーラム　市民ヒグマ講座	札幌市環境局 みどりの推進部みどりの推進課
	水産学特別講義	東京農業大学
	生物学集中講義	北大理学部
	羅臼町郷土資料館講座	羅臼町郷土資料館

財団法人管理運営事業

財団法人管理運営業務

第1回理事会（5月）は、「平成26年度事業報告及び決算報告、監査報告、定時評議員会の招集及び賛助会員入会承認」について審議しました。第2回理事会（10月）は、「賛助会員入会承認」の審議を行いました。第3回理事会（12月）は、「賛助会員入会承認及び特定個人情報等取扱規程の制定」について審議しました。第4回理事会（3月）は、「平成28年度事業計画案、収支予算案、資金調達（短期借入金）の限度額の設定、職員給与規程の一部改正、期限付雇用職員就業規程の一部改正、鳥獣捕獲等事業の実施に係る安全管理規程の制定及び賛助会員入会承認」について審議しました。

定時評議員会（6月）は、「平成26年度損益計算書（正味財産増減計算書）、貸借対照表、任期満了に伴う評議員の改選及び評議員長の選出」について審議しました。

また、年2回以上の開催が義務づけられている代表理事と事務局の運営会議を9月と3月に開催しました。その他、理事会・評議員会の開催時に事務局会議を行い、3月には今後5年間の「中期的経営収支の試算（平成28～32年度）」を作成しました。

役　員

理　事	関　根　郁　雄（理事長）
〃	辻　中　義　一（副理事長）
〃	佐々木　泰　幹
〃	鈴　木　完　也
〃	大　瀬　　昇
〃	田　澤　道　広
〃	北　　雅　裕
監　事	中　川　　元
〃	宮　腰　　實
評議員	高　橋　一　三
〃	吉　野　弘　志
〃	遠　山　和　雄
〃	金　澤　裕　司
〃	吉　野　英　治
〃	小　川　雅　勝
〃	任　田　　勉

※2016年3月31日現在

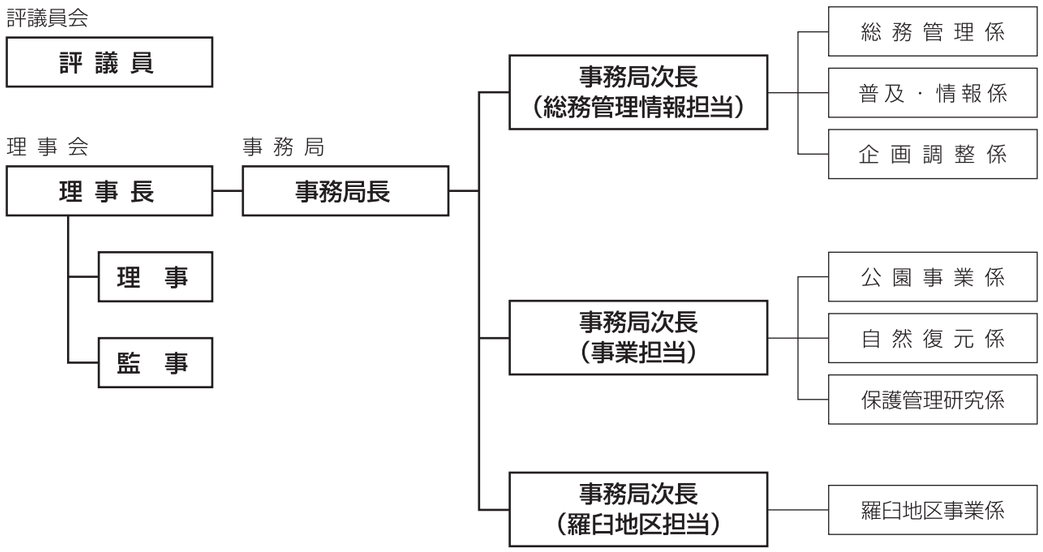
受託事業一覧

発注元	本文対象No.	事業名
斜里町	A 1	自然センター他指定管理業務
	A 2	知床五湖水道施設等管理業務
	A 3	斜里町ヒグマ管理対策業務
	A 4	斜里町自然環境保護管理対策業務
	A 5	しれとこ100平方メートル運動地森林再生推進業務
	A 6	岩尾別川再生業務
羅臼町	B 1	羅臼ビジターセンター運営業務
	B 2	野生鳥獣対策フェンス等設置及び検証業務
	B 3	羅臼町ヒグマ管理対策業務
	B 4	羅臼町野生鳥獣及び自然環境保護管理業務
環境省	C 1	羅臼ビジターセンター維持管理等業務
	C 2	ルサフィールドハウス管理運営業務
	C 3	知床五湖フィールドハウス等運営業務
	C 4	知床世界自然遺産地域科学委員会運営管理業務
	C 5	知床世界自然遺産地域科学委員会報告会支援業務
	C 6	ヒグマ保護管理方針に基づくゾーニング管理等推進業務
	C 7	ヒグマ保護管理方針等検討業務
	C 8	知床国立公園（春期）エゾシカ個体数調整実施業務
	C 9	知床国立公園エゾシカ個体数調整実施業務（冬期）
	C10	ルシャ地区エゾシカ季節移動等調査業務
	C11	航空センサス調査業務
	C12	国立公園知床五湖等利用適正化検討業務
	C13	日露隣接地域交流推進委員会運営業務
	C14	知床国立公園における海域利用適正化推進業務
	C15	知床五湖指定認定機関業務
	C16	世界自然遺産地域住民向け普及啓発講座開催業務
北海道	D 1	サケ科魚類遡上状況調査業務
	D 2	知床エコツーリズムのための自然情報提供システム構築業務
林野庁	E 1	知床ルシャ川等におけるサケ類の遡上数等調査業務
	E 2	斜里町ウトロ地区エゾシカ捕獲業務
	E 3	斜里町真鯉地区エゾシカ捕獲業務（ワナ）
	E 4	斜里町真鯉地区エゾシカ捕獲業務（モバイルカリング等）
他	F 1	カムイワッカ地区自動車利用適正化対策現地連絡調査業務
	F 2	知床五湖FHにおける当日受付カウンターの運営業務
	F 3	JBN事業

組織概要

名　　称	公益財団法人　知床財団（2011年4月に名称変更　旧名称　財団法人　知床財団）
設　　立	昭和63年（1988年）9月23日
設 立 者	斜里町・羅臼町
基本財産	4,500万円
所 在 地	〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別531番地
目　　的	この法人は、知床半島及びその周辺地域の自然環境に関する調査・研究、自然保護の普及啓発等の事業を行い、もって広く自然保護の保全と利用の適正化に寄与することを目的とする。
事　　業	(1)　野生動植物の調査・研究 (2)　自然保護の普及啓発 (3)　自然保護に関する諸団体との提携 (4)　自然環境の保全管理及び公園施設等の管理運営受託業務 (5)　その他この法人の目的を達成するために必要な事業
職　　員	35名

2016年3月末



知床の価値ある自然を私たちと一緒に守りませんか

http://www.shiretoko.or.jp/supporter/supporter.htm

「どなたでも知床の自然保護活動に貢献できます！」

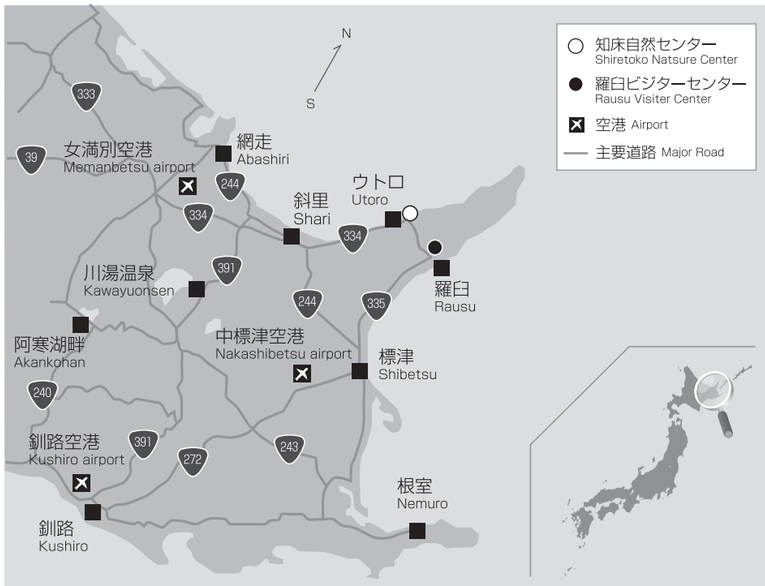
知床の自然を未来へ遺していくためには、皆様の継続的な支援が不可欠です。
皆様が知床の自然を思う気持ちを私たちに託して下さい。

知床財団の賛助会員制度

会員になると、知床自然情報誌SEEDSや刊行物を定期的にお届けする他、知床自然センターの映像展示館の入館料免除など、各種特典があります。

個人年会員	5,000円/年	法人年会員	20,000円/年
個人終身会員	100,000円/終身	法人特別年会員	100,000円/年
寄付	おいくらからでも受け付けています。		

●振込先 郵便振替 02750-2-37694　●加入者名 公益財団法人 知床財団



知床自然センター
〒099-4356 北海道斜里郡斜里町字岩宇別531番地
TEL0152-24-2114 FAX0152-24-2115
E-mail info@shiretoko.or.jp
http://center.shiretoko.or.jp/

羅臼ビジターセンター
〒086-1822 北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町6-27
TEL0153-87-2828 FAX0153-87-2876
http://rausu-vc.jp/